

柿澤 勇人

俳優



寝ても覚めても芝居のことばかり！
そういう生活が、これからも
ずっと続いていくんだと思います

劇団四季を出発点に、数々の舞台で主演を務め、

最近話題のドラマにも次々に出演。強い存在感を放ってきた柿澤勇人さん。

大河ドラマ『鎌倉殿の13人』での好演も、記憶に新しいところです。

ストイックに役と向き合い、ひたすら芝居に没頭する毎日。

「しんどいですよ」と言いつつも、熱い思いがあふれていました。

Profile



柿澤 勇人 (かきざわ はやと)

1987年、神奈川県生まれ。高校1年時に課外授業で観た『ライオンキング』に衝撃を受け俳優を志し、2007年、劇団四季の研究所に入所。2009年末に退団。以降、舞台に映像にと幅広く活躍。2022年のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』で演じた源実朝役が大きな話題に。近作は、ドラマ『不適切にもほどがある!』(TBS系)、舞台『オデッサ』、『彩の国シェイクスピア・シリーズ2nd Vol.1「ハムレット」』など。2024年9月、自身初となる写真集『untitled』(宝島社)を発売。10月からはドラマ『全領域異常解決室』(フジテレビ系)、『ライオンの隠れ家』(TBS系)に出演。

芸事が身近にある環境で育ったのに 僕はとにかくサッカーに夢中でした

4歳くらいのときから大人になるまで、15年ほど住んでいたのは川崎市の新百合ヶ丘。今では商業施設が建ち並ぶ賑やかな街になりましたが、その頃はビルなんかは全然なくて、一面原っぱだったんですよ。振り返ってみると、こども時代の僕は自然の中で、常に日焼けしながらサッカーボールを蹴って遊んでいたような気がします。

うちは親戚みんな仲が良く、毎週末のように父方か母方、どちらかの祖父母の家に遊びに行っていました。両親ともに3人きょうだいで、2人ずつこどもがいるのでいとこは8人。どちらの家も、行けばいつもワイワイと楽しかったですね。

父方の祖父は邦楽(江戸浄瑠璃・清元節)の三味線方、曾祖父はその唄い手(太夫)。ともに人間国宝になった名人ですが、僕にとっては普通の“じいじ”と“ひいじいじ”でした。でも祖父・榮三郎えいざぶろうは、どこに行くにも、家の中でも、片時も三味線を手放さなかった。年に一度、軽井沢に連れて行ってもらっていたんですけど、そこでもずっと三味線を持って、みんながお酒を飲んで楽しんでいるときも傍らで弾いていましたね。その姿を思い返すと、ああやっぱり伝統芸能の世界の人なんだなあって。僕の父は次男なので別の道に進みましたが、伯父といとこが清元の家名を継いで、それぞれ太夫として活躍しています。

昔、「三味線、やってみるか？」って祖父に言われたことがあるんですよ。でも当時の僕はとにかくサッカーがしたい、外で遊んでいたっていうタイプだった。もちろん歌舞伎座にも何度も連れて行ってもらったし、清元も聴かせてもらっていましたが、やろうとは思わなかったんですよ。だから即答で「やりません」と(笑)。今となっては惜しいことをしました。ちょっとでも勉強しておけばよかった! できることならば今からでも、教えてもらいたいと思いますね。

この仕事を始めて17年くらい経ちますが、ようやく最近、つながっているんだと思うようになりました。

とくに曾祖父・志寿太夫しずたゆうは唄のうまさで知られた人で、声量があって、喉もすごく強かった。僕も、舞台をやっている一度も喉を潰したことがないんですよ。これは血というか、曾祖父が見守ってくれているのかなって。だから、毎年の墓参りはもちろん、行き詰まってしんどいときも、ひいじいじ、ちょっと助けてくれ!と手を合わせに行ったりしています。

多様な人物像を細やかに演じたい 日常も、全部芝居につながっています

芝居には正解がないとよく言われますが、もう一歩飛び越えたくて、常に悩んでいますね。演出家や監督からOKが出て、いや、もっとできたんじゃないか、違うアプローチがあったんじゃないかと、いつだって自問自答の日々です。つらくてやめたいと思うこと? あります、あります、もうしょっちゅう!(笑)。

例えば今日はここまで電車で来たんですけど、ずっと周りの人のことを見ちゃったり。人によって行動や仕草はさまざまじゃないですか。立つ場所や立ち方、重心の掛け方なんかも気になるし、こういう姿勢だと何の仕事をしているんだろうとか、いろいろ考えてしまう。それは全部芝居につながるから、気が休まらないですね。オフの日に体を動かしたくてジムやプールに行ってもそう。走りながら、泳ぎながら、明日の芝居のことを考えちゃう。うまく切り替えられなくて、夜もあまり眠れないんです。

息抜きは、たまに飲むお酒だったり、お風呂に浸かるとか、サウナとか。でも今年は上半期ずっと休みなく走り続けてきたので、『ハムレット』の舞台が終わったあとに長めのお休みをもらって、両親と兄家族と一緒に沖縄・石垣島に旅行に行きました。海を眺めて、日焼けして、ただただぼーっとした時間を過ごせて楽しかった! 学生の頃から旅は好きですね。神奈川・東京エリアにしか住んだことがないから、そこから出るっていうのはものすごく刺激になるし、勉強にも、癒しにもなるんです。だから地方公演も楽しみで。温泉やサウナ施設を調べて、スケジュールが許せば1人でも行っちゃいますよ。まだ



まだ知らない場所はいっぱいある。もっといろいろなところを見てみたいと思います。

今は住まいや暮らし方も多様化していますよね。二地域居住みたいな生活スタイルには、めっちゃ憧れます！オンとオフがきっちりセパレートできるからうらやましい。今の僕にはちょっと現実的ではないんですけど(笑)、沖縄で完全オフモードを久々に体感して、将来的にはそういうのもいいなと思いました。夢ですね。

大好きな家族の近所に引っ越して正解！ やっぱり安心だし、楽しいです

20代半ばで一人暮らしを始めてから、3回くらい引っ越しました。でも、コロナ禍に更新のタイミングが来て。ちょうど主演の舞台が2本なくなって、役者を続けていけるのかにも不安を感じていた頃で、家族と話したら、近くに来れば？と誘ってくれたんです。更新期限もギリギリになっていて、仕事が入っていたタイミングだったので自分で時間はとれなかったんですけど、まだちっ

ちやい甥っ子たちが、代わりに内見しに行くと言ってくれて(笑)。いろいろ写真を送ってもらったなかで、決め手になったのはお風呂。甥っ子が2人で浴槽の中にいて、「僕たちが一緒に入れるくらいお風呂が大きいから、もうここにしようよ！」って。その一言で決めちゃいました。

だから今住んでいる家は、両親の家からも兄家族の家からも徒歩5分圏内。僕が甥っ子の送り迎えしたりもするんです。家族のことが大好きなんで、やっぱり安心感がありますね。近くの居酒屋やカフェをめぐるのも好きで、ほぼ制覇しています(笑)。家ではあまり台本を読まないの、コーヒーを飲みながら、とか、ちょっとお酒を飲みながら、仕事のことを考えられるお店がけっこうあるところも気に入っています。

デビュー以降舞台を中心にやらせていただけてきましたが、最近はドラマのお話をいただくことも多くなって。今は半々くらいかな。ミュージカルもストレートプレイも、映画もドラマもあるなかで、その全部で戦って、いい芝居を見せられるのが俳優としての理想です。演劇もミュージカルも観たことがないという人はいっぱいいますから、そういう人に舞台を観にきてほしいという願いもあります。もっと文化として広がればいいなって。映像と舞台を行き来することで、そんな流れをつくっていきたいと思っています。



**柿澤勇人 1st 写真集
「untitled」(宝島社)
好評発売中！**

定価：3,080円(税込)
出版社：宝島社
撮影：黒沼諭
判型：B5判
ページ数：128ページ

インタビュー動画は住宅金融支援機構(JHF)
YouTube公式チャンネルでご覧いただけます
https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4_r_69-mElwHrGxjyKXi

